

# 介護老人保健施設しおさい

**症例概要**      利用者:90代 女性 要介護4

病名:気管支炎

利用サービス:令和元年6月 しおさい入所を利用

経過:令和元年5月気管支炎の診断にて入院。ショートステイなどご利用されながら在宅で過ごされていたが、入院中ADLにおいてほぼ介助が必要となりご家族の介護負担から当施設に同年6月に入所となる。

## 内 容

入所当初は食事動作以外ADL全介助。初めての施設入所への戸惑いや落胆に加え、難聴の為コミュニケーションも取りにくく、他の利用者さんとも会話が続かないため、表情も硬く入所生活にストレスを感じている様子が見受けられました。そこで筆談でご本人のお気持ちを伺うと、「家にも帰れなくて、施設に置いて行かれた。自分じゃ何も出来なくなった。トイレに行きたくても行くことも出来ない。」と嘆いておられました。もともと利用者さんは過活動膀胱の診断を受けており排尿回数が多かったようですが、ADL低下によりオムツでの排尿に不快を覚えておられたのです。

そこでまずは車椅子への移乗・自走が出来るようになることでトイレでの排尿が可能になることを目標としました。リハビリ職員とカンファレンスを実施、リハビリ以外の時間も生活リハビリを行い、ADL向上を目指しました。ご本人の意欲もあり、車椅子への移乗・自走が可能となると、嬉しそうに車椅子でフロア内を自走される姿が見られるようになりました。しかし、今度は過活動膀胱による頻尿により「トイレに行ったら疲れる」という訴えが聞かれるようになり、医師に服薬調整もして頂きましたが症状は変わらず、再度カンファレンスを行いました。

リハビリスタッフより身体が小柄であり、排泄時に座面に座れても足が浮いてしまうので、台を設置し安定した状態で排泄を行って頂きましたが、トイレに行く回数は変わらず、別の対策を考えることにしました。利用者さんが好きな事(趣味)等をして楽しく生活して頂ければ、トイレへ行く回数が少なくなってくるのではないかと考えました。入所前の情報を読み返し、家事が好きだったという情報があり、食堂で過ごしてもらう時に、洗濯物やエプロン等をたたんで頂くお手伝いをしてもらいました。

また、在宅で生活していた頃どんなことを行っていたかをご家族の方に伺うと、ちぎり絵や折り紙などの手作業をする事も好きとのことで提供させていただきました。利用者さんは洗濯たたみやちぎり絵な

ど、ここでの役割を持ったことで「自分にも出来ることがあるんだという喜びを感じた」と話して下さいました。

現在では洗濯物を畳んだり、歌を歌っている時など、集中している姿を拝見することが出来、頻回に行っていたトイレ回数も減りました。また歌を通じて他の利用者さんと仲良くなり、今ではお話をするなど関係を持つことが出来ております。施設に入所させてしまった、という後悔をお持ちだったご家族も現在の姿を見て、「こんなに楽しそうに過ごしていて安心しました」と喜んでおられます。利用者さんは何歳になっても自分が必要とされる喜びや、人と人との繋がりを再認識したことで、笑顔や楽しみを見つけて下さり、私たちにも最高の笑顔をもたらせてくださる症例となりました。